

平成31年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査結果 課題分析表 (小学校)

教科ごとの「教科の観点」における平均正答率の比較

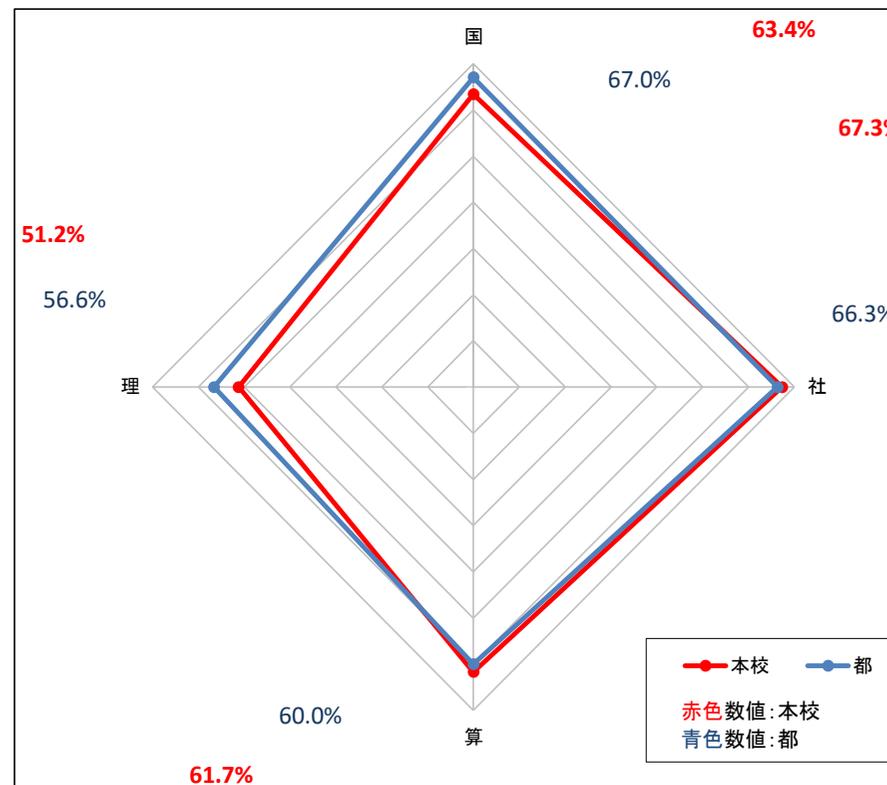
鹿骨小学校

国語	教科の観点				教科の合計
	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	
東京都	65.9%	70.9%	67.1%	65.9%	67.0%
本校	69.1%	65.9%	62.4%	60.6%	63.4%
都との差	3.2	-5.0	-4.7	-5.3	-3.6

社会	教科の観点			教科の合計
	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用 of 技能	社会的事象についての知識・理解	
東京都	63.1%	66.5%	69.8%	66.3%
本校	56.6%	63.7%	89.0%	67.3%
都との差	-6.5	-2.8	19.2	1.0

算数	教科の観点			教科の合計
	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	
東京都	46.4%	65.2%	67.8%	60.0%
本校	47.6%	67.3%	69.5%	61.7%
都との差	1.2	2.1	1.7	1.7

理科	教科の観点			教科の合計
	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解	
東京都	52.9%	66.4%	55.0%	56.6%
本校	44.3%	67.7%	49.1%	51.2%
都との差	-8.6	1.3	-5.9	-5.4



《都との比較にみる本校の状況》

- 算数科と社会科が都の平均値を上回った。
- 特に算数科は、各観点がバランスよく都の平均値を上回っている。
- 算数科の合計値が2%近く都の平均値を上回ったのは、昨年度から取り組んでいるサンライズ補習教室を始めとする学力定着への取組の成果が出てきたものと考え。
- 社会科は、「知識・理解」が突出してよい。しかし、他の2観点は都の平均値を下回っており課題が窺える。
- 国語科の合計値は都の平均値を下回っている。授業時間の多い教科であり、授業改善と学力補充が喫緊の課題である。
- 国語科の「話す・聞く能力」は、都の平均値を上回っている。
- 理科においては、5%強、都の平均値を下回っている。特に「科学的思考・表現」が8%強下回っており、今後の授業改善へ向けての課題である。
- 理科の「観察・実験の技能」は、都の平均値を上回った。

《授業改善のポイント》

- 引続き、「分かる授業創り」「鹿骨小学習スタンダード」による児童の立場に立った統一的な学習指導・学力定着を、全教職員が徹底して行っていく。
- 国語科では、「書く能力」と「言語についての知識・理解・技能」が、都の平均値より5%強、下回っていることから、漢字の習得・定着や、多様な語彙に日常的に触れる機会を増やす。また、ノート指導を明確化し、徹底することで、学んだ漢字や語彙を日常的に使う力を定着し、高めていく。
- 理科では、観察や実験の学習において、全校で「既習事項の確認→実験方法の確認→予想→実験→考察→まとめ」を統一的に指導し、根拠を持たせた思考・表現活動を充実させる。

《家庭・地域への働きかけ》

- 効果の上がる年2回の「家庭学習週間」創りを実現するため、工夫・改善を重ねていく。
- 「学校応援団」を通して、学力定着・向上の重要性をより深く認識していただき、理解と協力を一層得られるように働きかけを強化していく。
- 学力定着・向上における「児童の活躍」を、学校便りやホームページ等を通して、積極的に周知・広報していく。